



「京都新光悦村」はこれからの産業やものづくりのあり方を示す新しいスタイルの産業拠点として注目を浴びています。伝統産業を今にとらえ、最先端産業との交流により新たな生活文化産業が、この「京都新光悦村」から生まれます。

府総合開発計画の中で、新しい時代を切り開く産業施策として、国際的な工芸村づくりの展開が計画されました。

平成三年、「新光悦村構想」が策定されたのを受けて、関心を持つ三十七の企業で、「新光悦村研究会」が発足し、園部プランの研究が始められました。

平成六年三月、「第二次園部町総合振興計画」の中で、園部町北部の丘陵地を「新都市機能ゾーン」と位置づけ、地元で「平山」と呼ばれてきたこの地で計画を進めることとなり、平成七年から用地の買収を進めてきました。

その後、平成九年に京都府が事業主体となることが決定され、平成十三年からは、京都新光悦村への都市計画街路工事に着手。また、造成に先立ち「半田原池」と「内林新池」の二つの調節池が造られました。

平成十六年から造成工事が始まり、区域内の道路、上下水道、公園工事などが進められ、平成十八年八月末の時点で工事の進捗率は九十五%となっており、平成十八年度末に全ての工事が完了します。